

平成27年度

男女共同参画セミナーを開催しました。

女性が輝く組織に向けて

～多様な人材が育ち、活躍できる環境づくりのために～

平成27年11月11日(水)松本キャンパス旭会館3階SUNS大会議室において、信州大学男女共同参画セミナー「女性が輝く組織に向けて～多様な人材が育ち、活躍できる環境づくりのために～」を開催しました。松本のメイン会場の他、本学の各キャンパスや高等教育コンソーシアム信州の加盟大学(佐久大学、東京諏訪理科大学、松本歯科大学)にSUNS配信し、合わせて110名が参加しました。

はじめに、濱田州博学長から、教職員だけではなく、学生にも男女共同参画を考える機会を与え、職場、教育の場の両面から男女共同参画に今後も取り組んでいくという挨拶がありました。

次に、来賓挨拶として中島恵理長野県副知事からは、県のトップランナーとして信州大学が女性の活躍促進をリードしてほしいという期待のお言葉をいただきました。



信州大学学長
濱田 州博



長野県副知事
中島 恵理氏

講演内容

基調講演Ⅰ

「研究環境のダイバーシティ実現に向けて」

文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課
人材政策推進室 基礎人材推進係長 高橋 耕輔氏



女性研究者の採用・登用等に関する現状、女性活躍推進法、科学技術基本計画等の女性の活躍促進に関する動向、文部科学省の取組、及び大学における取組への期待について講演いただいた。

基調講演Ⅱ

「人材の多様化を見据えた女性研究者の活躍促進」

国立研究開発法人科学技術振興機構
科学技術プログラム推進部 プログラム主管 山村 康子氏



日本の女性研究者の現状、女性研究者支援・養成事業の実績と全国のこれまでの取組からグッド・プラクティスの紹介、及び女性研究者支援事業の今後の動向と本学の取組に対する期待について講演いただいた。

事業報告

「信州大学における男女共同参画の取組」

信州大学 男女共同参画推進室長 松岡 英子



本学における平成20年度からの男女共同参画の歩み、現状など事業報告と今後の課題について説明。その後、山村康子氏、高橋耕輔氏からコメントや助言をいただいた。



男女共同参画に係わる2つの賞を受賞しました。

平成27年度

均等・両立推進企業表彰

「均等推進企業部門 長野労働局長優良賞」

「均等・両立推進企業表彰」は、女性の能力を発揮させるための積極的な取組(ポジティブ・アクション)や、仕事と育児・介護との両立を支援する取組を行って、他の模範となるような企業を表彰する制度です。



本学は女性研究者の比率向上と活動支援の取組が評価され、長野労働局長から表彰されました。この受賞は、長野県内で11社目の受賞となり、教育機関としては初の受賞となります。



平成27年10月30日(金) 長野労働局長室にて
岡崎直人長野労働局長(右)と
表彰状を手にする大森浩之総務部長(左)

平成27年度

子育て支援、女性の活躍推進企業知事表彰

「子育て支援企業知事表彰」

仕事と子育ての両立を可能にする職場環境づくりを積極的に推進している企業として「子育て支援企業知事表彰」を受賞しました。平成27年11月7日(土)に開催された「平成27年度長野県男女共同参画推進県民大会・女性の活躍推進フォーラム」の中で表彰式が執り行われ、中島恵理長野県副知事から濱田州博学長へ賞状が授与されました。



このフォーラムは長野県男女共同参画推進県民会議と長野県の主催により開催されました。毎年県内各地をまわって大会が催され、本年度は小諸市文化センターに約300人が集まりました。講演、シンポジウムの他、県民構成団体の活動内容の展示などがありました。



賞状を手にする
濱田州博学長



中島恵理長野県副知事(左)より賞状を受け取る濱田州博学長(右)

平成27年度 科学技術人材育成費補助事業シンポジウム

科学技術人材育成 これまでの10年、これからの10年

「人材育成について多様な立場から考える」

—若手や女性がさらに輝くために、産学官でなすべきことは何か—

12月14日(月)、科学技術館(東京)にて、平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業シンポジウム(文部科学省主催)が開催されました。400名近くの参加があり、本学からは松岡英子男女共同参画推進室長、山本巖大学院人材育成センター副センター長、伊藤建夫テニュアトラック普及定着事業コーディネータが参加しました。女性研究者支援や若手研究者支援(テニュアトラック、ポストドクター・キャリア開発など)にかかわる科学技術人材育成事業の関係者(産学官の研究機関)が集まりました。これまでは事業別にシンポジウムを開催していましたが、今回初めて関係者が一同に会しました。

文部科学省の施策説明、基調講演、分科会、パネルディスカッションと盛りだくさんで、終了後の情報交換会も有益でした。若手研究者・女性研究者の育成に関するこれまでの施策・成果・今後の方向性、およびそれぞれの事業を個別に展開するだけでなく、人材育成を総合的に取りあげる必要性も議論されました。

参加
しました。



平成27年10月1日付で新しく全学教育機構長に就任された高野先生に、全学教育機構での男女共同参画やこれからの課題等について松岡室長がインタビューしました。

全学教育機構の男女共同参画について

前機構長が男女共同参画に熱心に活動されて、私もそれを引き継いでいきます。また、私は男女共同参画推進室のメンターに登録しており、女性研究者の育成に貢献したいと考えています。社会を構成する中に男性と女性しかいないので、女性は家庭だけではなく、社会の中でも活躍できるシステムができればいいのかなと思います。

全学教育機構は一昨年女性限定公募を行い、比較的女性教員の比率が高いです。文系の分野では女性が多いので、今後理系分野の女性教員も増やしていきたいです。設立して10年で伝統もなく、新しい感覚で取り組んでいけるのが全学教育機構の強みです。信州大学は環境が良いので、自然が好きという女性にぜひ来ていただけたらと思います。

講義でも男女共同参画の内容を少しでも入れていけるよう取り組んでいます。共通教育は1年生が全員受講するので、多くの先生が男女共同参画について話し、学生の意識啓発になるといいと思います。



たかの かずひこ
高野 嘉寿彦 全学教育機構長

全学教育機構のこれからの課題等

教職員が育児休業や介護休業を取得した際、不安なく復帰できるような環境にすることが必要だと思います。また、私の子育て経験から、小学校低学年は下校時間が早く、学童保育も早くに終わってしまうので、学内で子どもを遅くまで預かってもらえるような場所があるといいと思います。病後児保育についても同様に、スペースを設けられると良いです。

環境設備の課題として、学生に良いイメージを持ってもらうためには見た目や色が大事だと考えているので、講義棟を徐々に変えていきたいと思っています。全学教育機構の講義棟は耐震改修を行った際に、1階女子トイレにパウダールームを設置しました。また、全学教育機構の教員が1年生の副担任となるので、入学した女子学生ができるだけ負担なく学生生活を送れるよう、女性教員を増やしていきたいと思っています。



インタビュー全文はスプレウェブサイトに掲載しております。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

教育学部で

Lunch meeting

「ランチミーティング」を開催しました



女性教員からの「またやりたい!」という声に応え、平成27年12月16日(水)に教育学部第二会議室でランチミーティングを行いました。3年ぶりの開催に、女性教員9名が集まりました。着任されて間もない先生もいらっしやっただので、自己紹介から始まり、研究とライフイベントの両立についての話などあつという間の1時間でした。特に育児・介護と研究の両立については、休暇の取り方や裁量労働制について疑問を持つ教員の投げかけから、それぞれの経験や他大学の事例が紹介されました。他にも工学部のきれいになったトイレ、パウダールームの話題などがあり、情報交換の場となりました。



教育学部以外の学部でもご要望があれば開催いたしますので、男女共同参画推進室までご連絡ください。

NEWS and TOPICS



■ おひさま保育園でクリスマス会が開催されました

平成27年12月15日(火)に学内保育施設「おひさま保育園」にてクリスマス会が行われました。鈴の音とともにサンタさんが登場すると子どもたちは目を輝かせて大喜び。一人ずつサンタさんからプレゼントをもらって、大興奮の子どもたちでした。最後に子どもたちからサンタさんに「ガンバリマンのうた」が贈られ、とても賑やかな会となりました。



また来年も来てね～!



ガンバリマンの
合言葉 みんな仲間だ
エイエイオー!



作品は園児たちの手作りです



展示したポスターと松岡室長挨拶の様子

■ 日本水環境学会シンポジウムにおける 本学の男女共同参画活動の紹介

9月14日(月)から16日(水)に本学長野(工学)キャンパスにおいて第18回日本水環境学会シンポジウムが開催されました。9月15日に開催されたシンポジウム「男女共同参画社会における日本水環境学会の今後の活動」の冒頭に、松岡英子男女共同参画推進室長が本学の取組について紹介するなど挨拶をしました。



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

平日は母が手伝いにきてくれるので、保育園の迎えや夕食の支度をしてもらえ、本当に助かっています。私ที่บ้านに帰るのは19時すぎで、一緒にご飯を食べた後、21時には布団に入るようにしているので、平日に子どもと会話する時間はほんの少しです。逆に休みの日は私とずっと一緒にいますが、「一番好きなのは、ばあば(おばあちゃん)、次が母さん」「あ～、ばあばの料理は世界一だね」と言われます。それにもめげず、せめて休日くらいはと、公園に連れて行ったり育児をしています。

子どもと一緒に過ごす時、ささいなことで大喜びするので、こちら嬉しくなることがあります。先日は♡模様のリングや顔に見えるパンを発見し、大騒ぎでした。

やまだ かつら
山田 桂 先生

学術研究院准教授 (理学系)
地球学コース



家族構成

娘 (9歳、5歳)

お子様からの呼ばれ方

かあさん、かあ

今一番の悩みは、長期出張の時の子どもの世話です。現在は、調査や学会などで数日家を留守にする時には、両親が来て子どもたちと一緒に過ごしてくれます。もし両親のどちらかが体調を崩したりしたら、家を離れることは出来なくなります。そうなった場合の対策を考えてはいますが、なかなか良い案が浮かびません。



次回はコチラ! 小坂 紘子係員 理学部 総務グループ(会計)



お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進室 (SuFRé)

松本分室 〒390-8621 松本市旭 3-1-1
(総務部人事課内) TEL 0263-37-2167 内線 811-2127 FAX 0263-37-3314

長野分室 〒380-8544 長野市西長野 6-0
(教育学部内) TEL/FAX 026-238-4048 内線 831-4048

開室時間

9:00 ~ 17:00 (月~金)

E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp

信州大学 スフレ 検索